

～今季(2021-2022)のインフルエンザについて～



日本感染症学会は、今シーズンのインフルエンザの流行について、「大きな流行を起こす可能性もある」と予測しています。

昨シーズンは、新型コロナとインフルエンザの同時流行が起こるのではと心配されましたが、およそ1.4万人と激減しました。これは3月上旬までのデータですが、春から夏にかけてインフルエンザにかかる人が少ないことから、数字に大きな変化はないとみられています。

日本感染症学会によりますと、手指衛生やマスク着用、3密の回避、国際的な人の移動の制限などの新型コロナの感染対策が、インフルエンザの感染予防にも効果的であったと考えられます。

また、1つのウイルスに感染すると、他のウイルスには感染しづらくなるという現象で、つまりインフルエンザの流行時期に新型コロナという強力なライバルがいて、インフルの感染が広がる余地が少ない状態になっていたとみられます。そのため、インフルエンザの報告が少なかったのではとみられています。

しかし、日本感染症学会は「大きな流行を起こす可能性もある」と予測しています。

その根拠ですが、WHO(=世界保健機関)の報告をみると、アジアの亜熱帯地域、バングラデシュでは、去年後半と今年の初夏にインフルエンザの流行が確認されました。

こうしたアジアの状況などから、インドなどで小さな流行が繰り返されることで、ウイルスが保存され、人の移動が再開されると国境を越えてのウイルスが拡散されていく懸念があります。



また、日本は昨シーズン、インフルエンザの患者が極めて少なかったので、集団免疫が形成されていないと考えられます。こうした状況下でウイルスが海外から持ち込まれると、大きな流行を起こす可能性もあります。学会では、**今シーズンも積極的なワクチンの接種を推奨しています。**

糖尿病の人はワクチン接種が勧められる

糖尿病や心血管疾患などの危険因子をもつ人は、インフルエンザに罹患した場合の合併症のリスクが高いとされています。これらの因子のある人は、すべてにワクチン接種を推奨されます。こうした人に接することの多い医療従事者や介護者も含まれます。

ワクチン接種が勧められる人

- 6か月以上5歳未満
- 65歳以上(50歳以上とするものもある)
- 慢性呼吸器疾患(気管支喘息やCOPDなど)
- 心血管疾患(高血圧単独を除く)
- 慢性腎・肝・血液・代謝(糖尿病など)疾患
- 神経筋疾患(運動麻痺、痙攣、嚥下障害を含む)
- 免疫抑制状態(HIVや薬剤によるものを含む)
- 妊婦
- 長期療養施設の入所者
- 著しい肥満
- アスピリンの長期投与を受けている者
- 担がん患者



インフルエンザワクチンの供給量は去年と比べ減る見通し



インフルエンザのワクチンの供給量は、去年と比べて今シーズン減る見通しです。昨シーズンは、3342万本でしたが、今シーズンは、約2600～2800万本となる見通しが示されています。

なぜ去年より少ないのでしょうか。昨シーズンは、ワクチンを効率的に増やすことができました。たくさん供給することができたけれど、今シーズンは平年並みにしか作ることはできませんでした。

ワクチンの接種開始時に量が少なかったのは、**新型コロナ**のワクチン生産で滅菌する際に使うフィルターの入手が困難になったためです。厚労省も例年並みには供給されると説明しているのですが、今予約が取れなくても、打ちたい人は慌てずに打ちましょう。

「仮にインフルエンザと新型コロナが同時流行すれば、医療機関に大きな影響を及ぼします。発熱外来に患者が殺到したとして、症状が発熱のみの場合、コロナかインフルエンザか判別が難しいところです。つまり両方の検査が必要になり、ただでさえ飽和状態にある医療機関の診療態勢に、大きな負担がかかります。」

普通の風邪とインフルエンザの違い

	かぜ(普通感冒)	インフルエンザ
		
発症時期	1年を通じ散発的	冬季に流行
主な症状	上気道症状	全身症状
症状の進行	緩和	急激
発熱	通常は微熱(37～38℃)	高熱(38℃以上)
主症状(発熱以外)	<ul style="list-style-type: none">● くしゃみ● 喉の痛み● 鼻水、鼻づまり など	<ul style="list-style-type: none">● 咳 ● 喉の痛み ● 鼻水● 全身倦怠感、食欲不振● 関節痛、筋肉痛、頭痛 など
原因ウイルス	ライノウイルス、コロナウイルス、アデノウイルス など	インフルエンザウイルス

インフルエンザの予防法

■手洗い・うがい・換気・湿度調整

手洗い・うがいは、今年も念入りに行いましょう。正しく手洗いするには30秒かかります。砂時計などで、測りながらの実施方法もあります。アルコール消毒などの消毒も一緒に行うことで、対策を行いましょう。また、乾燥しやすい時期ですので、約1時間に一回程度換気を行い、加湿器などを使い湿度を保ちましょう。

■予防接種

インフルエンザの予防接種を行うことも効果的です。重症化のリスクを下げるすることができます。

■空間除菌

換気ができない！インフルエンザワクチンの接種もできなかった！何度も除菌作業がめんどくさい！そんなときには、置き型の空間除菌をおすすめします。**二酸化塩素クローツ ジェルタイプ**を置いておくだけで、二酸化塩素のガスが発生して、空間除菌・抗菌・消臭を行います。

「インフルエンザは短距離から長距離までの空気感染によるもので、コロナと感染経路が一緒です。ひいては有効な対策も同じです。日本ではコロナ禍で、マスク着用や換気などの対策がしっかり行われているので、大きな流行は起こらないと考えます。コロナとの同時流行の可能性も、否定はしきれないにせよ、ケアすべきところは一緒です。同時にはやる可能性があるなら、それを念頭に置いて行動すればいいだけで、やることが2倍になるわけではありません。みんなできちんと対策をして頑張りましょう!!